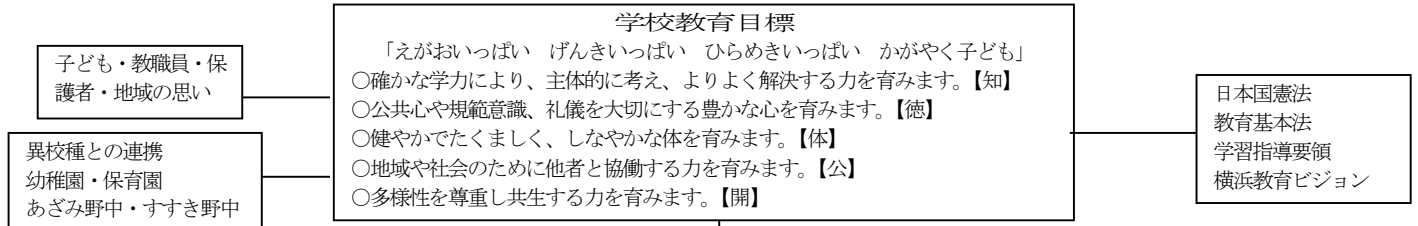


# 黒須田小学校 道徳教育全体計画 構想図



- 6つの重点的課題**
- ア 豊かな心の育成
  - イ 国語力及び学習の基礎能力の育成
  - ウ コミュニケーション能力の育成
  - エ 健康でたくましい体の育成
  - オ 情報化社会を生き抜く能力の育成
  - カ 社会の変化に対応する能力の育成

**道徳科の目標**  
 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

**道徳教育の重点目標**

視点A 自分のよさを生かし、目標に向かってねばり強くやりとげようとする気持ちを育む。  
 ◎視点B 互いに信頼し、助け合う気持ちを育む。  
 視点C 郷土にある文化や伝統などに気づき、大切にす気持ちを育てる。  
 視点D 生きること喜びを感じ、自他の生命を大切にす気持ちを育む。

視点	低学年 (第1・2学年)	中学年 (第3・4学年)	高学年 (第5・6学年)
A	よいことと悪いことの区別をし、自分ですべき勉強や仕事をしっかりと行う。	自分のことは自分でやり、ねばり強くやりとげる。	自分の特徴を知り、工夫しながらよいところを積極的にのぼす。
B	友だちやまわりの人々と仲良くし助け合う。	相手のことを理解し、信頼し、助け合う。	互いに信頼し、絆を深め、励まし合い、助け合う。
C	郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心を持つ。	郷土や我が国の文化と伝統を大切にすると共に、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことをする。
D	生きることが喜び、生命を大切にす。	生命の尊さを感じとり、生命あるものを大切にす。	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

**【各教科における道徳教育】**

国語	・豊かな心情を育てる。 ・我が国の文化や伝統を大切にす心を育てる。
社会	・公共のために役立つ態度を養う。 ・郷土や我が国の文化と伝統を大切にす心を育てる ・外国の文化を大切にす心を育てる。
算数	・筋道を立てて考え、真理を大切にす、工夫して生活をよりよくしようとする態度を養う。
理科	・自然に親しみ、見通しを持って実験・観察などを行い、自然を愛する心情や自然に対する畏敬の念を育てる。
生活	・自分自身や自分の生活について考え、自分で生活しようとする態度を養う。
音楽	・豊かな情操を養う。 ・美しいものに感動する心を育てる。
図工	・豊かな情操を養う。 ・創意工夫する態度を養う。 ・美しいものに感動する心を育てる。
家庭	・家族の一員として、生活を工夫しようとする態度を養う。
体育	・根気よく努力する態度を養う。 ・友だちと協力し助け合う態度を養う。 ・めあてにむかって最後までやりとげようとする態度を養う。
外国語	・マナーやルールを意識しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・異なる文化の人々と進んで関わろうとする態度を養う。

**特別の教科 道徳科**

道徳教育と密接な時間を図りながら計画的、発展的な指導に深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

児童一人ひとりが、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身につけていく時間。

**【特別活動における道徳教育】**

・学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事のいずれにおいても「望ましい集団活動」を展開し、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性を育成する。  
 ・学級や学校の生活づくりのために自己の責任を果たす態度、多様な他者と互いのよさを認め合って協力する態度、規律を守る態度などを養う。

**【総合的な学習の時間における道徳教育】**

自分の課題を追求する学習を通して、自分自身を見つめ互いに認め合い、高め合うことの意義に気づくとともに自分なりの価値観を高める。

**【なかよし活動の時間における道徳教育】**

異学年との交流を通して、相手意識を持って協力し思いやりのある態度を養い、学校作りに関わっている意識を高める。

**【個別支援学級における道徳教育】**

子ども一人ひとりの自己実現を図るとともに、社会生活に必要な態度と能力を育成し、現在・将来の社会参加、自立の基礎を養う。

**【その他の教育活動における道徳教育】**

人権教育・環境教育・国際理解・健康教育・福祉教育 など

**【日常の教育活動における道徳教育】**

基本的な生活習慣の形成を中心とした実践的態度を養う。  
 (朝の会・帰りの会・掃除の時間・給食の時間など)

学級の道徳教育の充実  
家庭・地域との連携  
学習環境の充実・整備

道徳資料の活用  
「生きる」、「私たちの道徳」

## ◎年間評価計画

### 1 「特別の教科 道徳」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 2 指導と評価の一体化から見た、評価の視点

○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

(自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等)

○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

(読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等)

### 3 評価の基本的な考え方・方向性

・他の児童との比較ではなく、いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**(観点別評価でもない。児童の良い点をほめたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童の発達段階に応じ励ましていく評価)

・数値による評価ではなく、**記述式**

・**個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまり**を踏まえた評価

・児童の**学習状況や道徳性に係る成長の様子**を評価(道徳性そのものを評価することは難しい。)

・1回の道徳科の授業の中で全ての児童について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、学期や学年を通して**長い期間で評価を積み重ねる**などの工夫が必要

・道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することがないようにする。

### 5 評価の方法

・1回1回の授業の中で全ての児童について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位の授業という長い期間の中でそれぞれの児童の変容を見取ることを心がける。

・児童の学習の過程や成果などの記録を計画的に**道徳ノート**に集積して学習状況を把握する。

・授業時間に発話される記録や記述などを、児童が道徳性を発達させていく過程での児童自身のエピソード(挿話)として集積し、評価に活用する。

・児童が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取る。

### 6 児童や保護者への伝え方

前期末・後期末のあゆみに文章表記する。記録してきた**道徳ノート**を活用して、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝える。